

元高大接続システム改革会議委員

南風原朝和 様

当センターから去る6月18日に公表しました「大学入学共通テスト」における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について」に対して、6月19日付けでご質問のあった事項について、当センターでは以下のとおり考えています。同資料に記載の通り、同資料は現時点での検討状況を踏まえたものであり、大学入学共通テストの実施方法等については、今後、本年11月に実施される試行調査の分析・検証を経て、来年度初頭に正式に公表される予定です。

#### 【1】国語の記述式問題の採点について

国語の記述式問題については、「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月、文部科学省）（以下「実施方針」）において、「設問ごとに設定した正答の条件（形式面・内容面）への適合性を判定し、その結果を段階別で表すことなどについて検討する。」、また、「大学入学共通テスト実施方針策定にあたっての考え方」（同）において、「正答の条件（形式面・内容面）への適合性を判定し、その結果を複数段階（例えば、3～5段階程度）で表示することを想定している。」とされています。

当センターとしては、この実施方針に基づき、昨年11月に実施した試行調査の結果を用いて分析したところ、小問の評価については3段階では中央の段階に集まりすぎることで、5段階では自己採点が難しくなることから、4段階とし、総合評価については、大学側の選抜に活用しやすいよう5段階とする方向で、当センターに設置された新テスト実施企画委員会でご議論いただいているところです。4段階の意味は、正答の条件を満たした数の違いになります。どの程度の正答の条件を満たせばどの段階になるかは、本年11月の試行調査を経て最終的に公表する予定です。

項目反応理論の観点からの議論では段階別表示を行った場合に情報量が低下することのご指摘はその通りかと思いますが、当面、共通テストの運用において項目反応理論を直接利用する予定はありません。他方、カテゴリーの数値化の根拠の一つとして、項目反応理論では等間隔の整数値が最適であるという結果もあります。今後、これらの知見を活用することは有用かと考えています。

#### 【2】英語の出題内容について

「実施方針」では、「各大学は、認定試験（現在は「認定」という語を用いていない）の活用や、個別試験により英語4技能を総合的に評価するよう努める。」とされているところです。資格・検定試験のみならず個別試験も含めた選抜方法全体についての各大学における検討状況を勘案しながら、また、英語教育関係者等のご意見も踏まえながら

引き続き検討し、本年11月の試行調査の実施を経て最終決定する予定です。

**【3】2024年度以降の英語試験について**

当センターとしては「実施方針」に書かれていることが文部科学省の方針であると理解しています。

平成30年6月26日

独立行政法人大学入試センター  
理事長 山本廣基